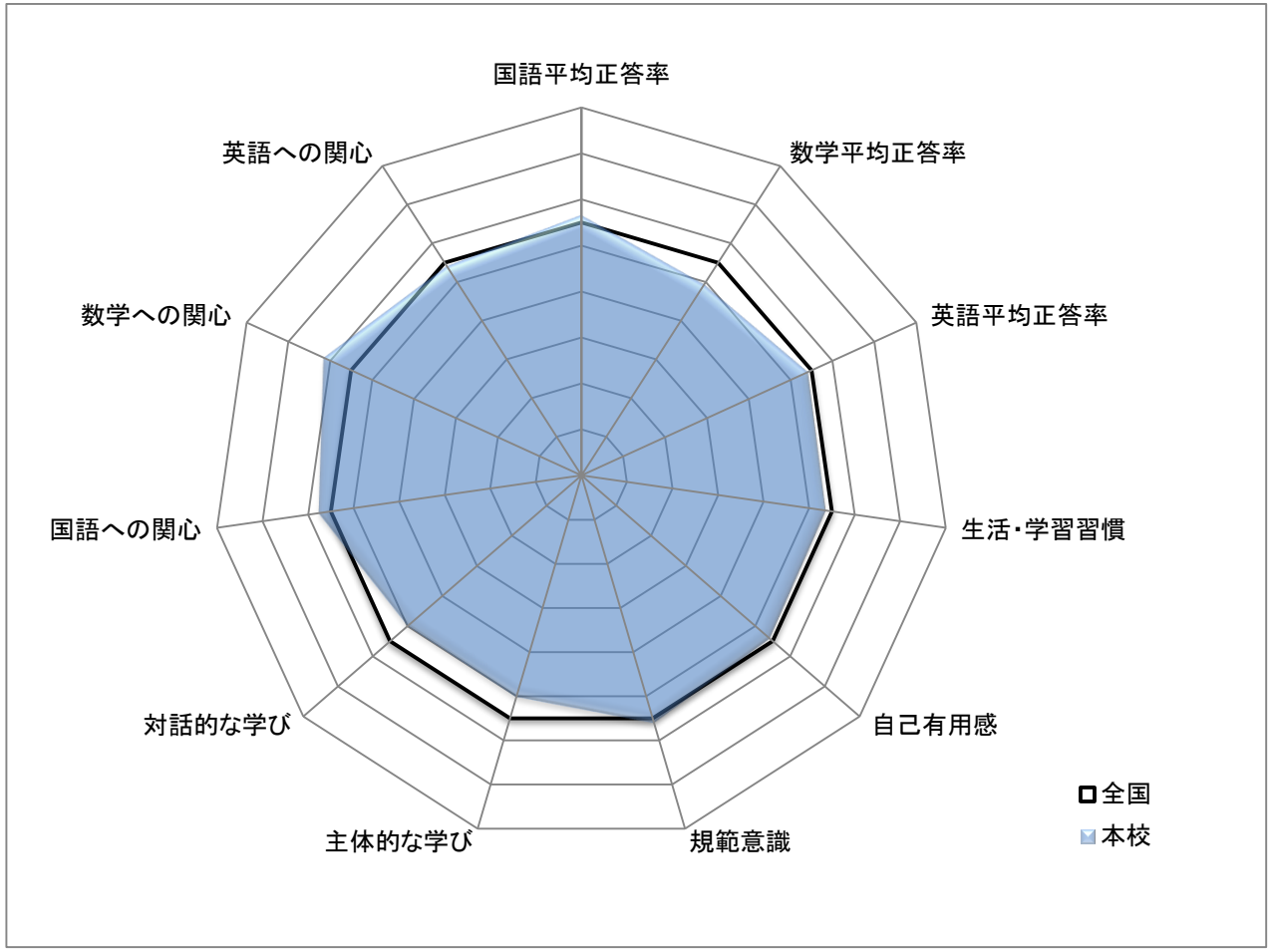
平成31年度全国学力・学習状況調査結果における課題分析表（中学校）　　#N/A

●各領域における、全国平均正答率及び、全国の肯定的回答合計値を基準とした場合の、本校の様子。




《チャートの特徴》

【全国平均を1とした場合の本校の様子】
国語の平均正答率…1．03　　数学の平均正答率…0．89　　英語の平均正答率…0．98
【チャートの特徴】
・生活習慣、自己有用感については、平均的な値であった。
・規範意識については全国平均を1とした場合、0．97であった。
・国語への関心については全国平均を1とした場合、1．35　数学への関心は1．14
英語への関心は1．01であった。

《現状把握》

今回の結果を分析してみると、知識を問う問題に対する正答率は高いが、思考判断を問う問題への正答率が低かった。本校では数学、英語で少人数授業を取り入れており、数学については習熟度のクラス編成を行っている。一人一人の生徒に手厚く指導できる学習環境が、基礎学力の向上に繋がっていると考える。今後は、思考判断の力を養うために、少人数の特性を活かした「学びあい（アクティブラーニング）」を積極的に授業に取り入れていく。

《授業改善のポイント》

国語・数学・英語各教科において、教科への興味関心が全国平均よりも上回っている結果となった。今年度より、各教室にプロジェクターが配置され、今まで以上に視聴覚教材を活用した授業展開が可能になった。ICT機器を有効に取り入れながら、継続して授業の工夫と充実に努める。

その一方で、「対話的な学び」「主体的な学び」が不足しているという結果になった。その原因として、講義型の授業が中心で、子どもたちが互いの意見を交換したり、発表したりする機会が不足していることが考えられる。教科の特性を生かしながらも、「講義を聞く時間」「自ら考える時間」「意見の交流をする時間」を区別し、メリハリをつけた授業展開に取り組んでいく。

《家庭・地域への働きかけ》

「家庭学習課題」として、各学年、毎日、国語・数学・社会・理科・英語の課題を順番に取り組ませ、提出させている。この課題に取り組むことで家庭でも毎日机に向かい、自主的に学習に取り組む習慣を身に付けさせるきっかけとしている。「家庭学習課題」の目的を家庭にも周知して協力していただくことを継続する。